

## 模擬授業及び振り返り方法の検討

長谷川 望

愛知東邦大学

## 模擬授業及び振り返り方法の検討

長谷川 望

### 目次

1. はじめに
2. 研究方法
3. 結果
4. 考察
5. まとめ

### 1. はじめに

近年、教員養成大学及び学部において、教員免許取得見込み学生の資質や能力に関して質保証が求められている。そこで、各大学及び学部は、教員養成課程におけるカリキュラムや授業内容の改善を積極的に実施している。その背景として、中央教育審議会の答申（2006）の「今後の教員養成・免許制度の在り方について」がある<sup>14)</sup>。この答申では、養成段階において教員としての資質能力を確実に保証するための方策の必要性を指摘している。

また、「いつの時代にも求められる資質能力」として、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力等が挙げられている。そして、「今後特に求められる資質能力」として、地球規模に立って行動するための資質能力、変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力、教員の職務から必然的に求められる資質能力等が挙げられている。

さらに、「得意分野を持つ個性豊かな教員」として、画一的な教員像を求めることは避け、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、積極的に各人の得意分野づくりや個性の伸長を図ることが大切であることを示している。

この答申をうけ、実践的指導力を育成する取り組みとして、教員養成大学及び学部の教員養成課程において、模擬授業が積極的に実践されてきている。三木（2001）は、全国の体育系の教員養成大学・学部63校を対象に実態調査を行った結果、模擬授業を実施している大学・学部は全体の約3割に当たる19校であったことを報告している<sup>13)</sup>。また、模擬授業を通して学生が、どのような能力を身に付けているのかを明らかにすることが求められており、その研究成果が多く報告されている<sup>1) 2) 3) 9) 10) 11)</sup>。

藤田・細越（2008）は、模擬授業において実際に教師役として授業を運営・管理したり、学習者役として授業に参加したりする実践的な経験を通して、教師と学習者を複合的に捉える視点を持つことができるようになり、教師および学習者についての認識の変容や観察力の向上が認められたとしている<sup>1)</sup>。それに加えて、模擬授業を経験することによって、教材についての良い点を見出すことができるようになったとしている。

また、木原ら（2009）は、体育の模擬授業を観察して体育授業の要素に気づくことができたのかという観点から、模擬授業の効果を明らかにすることを検討している<sup>10)</sup>。その結果、模擬授業で教師役と生徒役を体験したことが、「子供の学習」を組織する教師の働きかけという体育授業の要素をより具体的に気づかせたと報告している。

模擬授業を振り返るという観点から、藤田ら（2011）は、模擬授業において教師役を経験することの意義について授業を「省察」するという視点から検討している。その結果、模擬授業における教師役という実践的な経験は、①学習者役が示した反応を踏まえた「省察」を促進、②「教材・教具・学習課題」について批判的に評価する視点の獲得、③学習者として模擬授業に参加した際の「省察」、に影響を与えている<sup>3)</sup>。また、各大学で実施されている模擬授業は、ねらい、開講学年、実施の人数、時間、運営方法、模擬授業後のふりかえりの方法・内容等も様々である。これは、受講者数や受講者の実態、教育実習や他の教職関連科目との兼ね合い等によるためだと考えられる。そのため、模擬授業の実施方法や振り返りは、各大学の実情に即した方法および内容で展開されるべきだと考えられるとしている。

そこで、本研究では、模擬授業を経験した学生に実施したアンケートから、本学における教員志望学生の実践的指導力の向上を促すための模擬授業の実施方法及び振り返り方法を検討することを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2-1 調査対象及び対象授業

A大学人間学部人間健康学科の中学校・高等学校の保健体育教員免許取得希望である、教職課程登録者であった。教職課程における必修科目である「保健体育教育法Ⅰ」を受講した201X年の3年生のうち50分間の体育分野の模擬授業において、教師役及び生徒役を体験しアンケートのデータに欠損がない学生15名を分析対象とした。

### 2-2 手続き

図1に示した通り、「保健体育教育法Ⅰ」の授業において先ず、教師役としての視点を持つことを意図し、「保健体育教育法Ⅰ」の授業内で実施された、「教育実習研究」履修者である4年生の模擬授業に生徒役として参加した。生徒役の体験後、ペアごとに指導案を作成し、担当教員による指導案のチェックを受けたうえで、2人1組のペアごとに実際の模擬授業を50分実施した。毎回の模擬授業終了後、振り返りシートに記入をし、教師役・生徒役・担当教員を交えた振り返

りを実施した。すべての模擬授業終了後、教室にて、担当教員により教師行動、生徒の活動をもとに意図的に編集された教材としての模擬授業のビデオ映像を視聴した。模擬授業を経験した学生が、ビデオ映像をどのような視点で振り返るのかを確認するために、ビデオ映像に意図はないことが伝えられた。

「保健体育教育法Ⅰ」終了後に実施された、「教育実習事後報告会」にて、「保健体育教育法Ⅰ」の模擬授業実施方法等に関するアンケートを実施した。アンケートは、「5. 大変役に立った」「4. 役に立った」「3. どちらともいえない」「2. あまり役に立たなかった」「1. 全く役に立たなかった」の5件法による回答を求めた。また、それぞれの質問について自由記述を求めた。

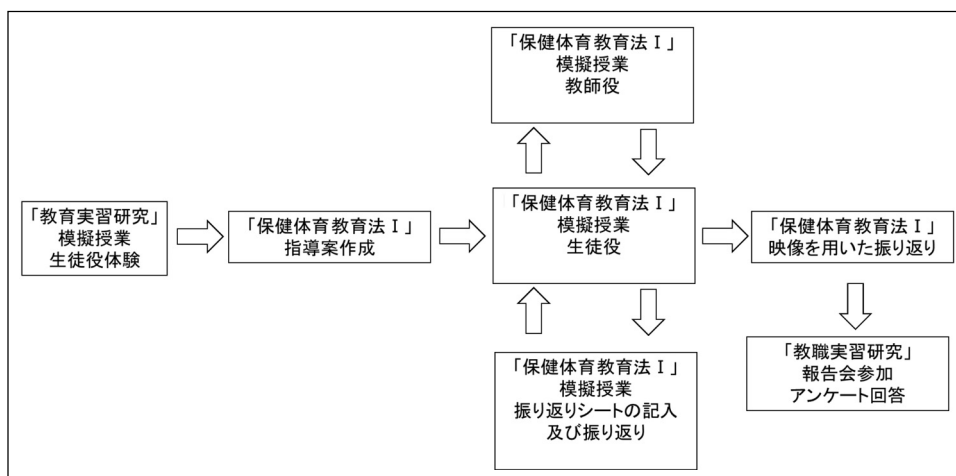


図 1. 保健体育教育法Ⅰにおける模擬授業実践の流れ

### 3. 結果

#### 3-1 模擬授業の実践

アンケートの結果、模擬授業を実践したことについての回答は、「5. 大変役に立った」と回答した学生が53%、「4. 役に立った」が40%、「3. どちらともいえない」0%、「2. あまり役に立たなかった」0%、「全く役に立たなかった」7%であった(図2)。

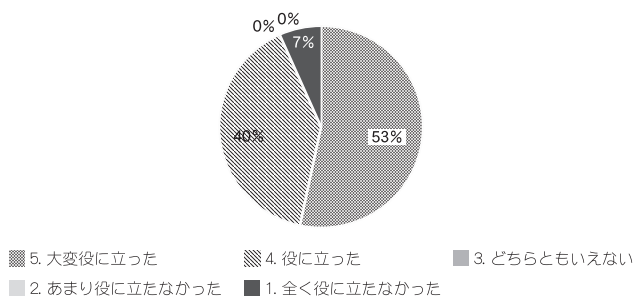


図 2. 模擬授業の実践

自由記述については、表 1. に示した通り、「経験の機会」「課題を知る機会」「自己の客観視」「複合的に捉える視点」の 5 つに分類した。

### 3-2 模擬授業の振り返り

アンケートの結果、模擬授業の振り返りについての回答は、「5. 大変役に立った」と回答した学生が67%、「4. 役に立った」が13%、「3. どちらともいえない」13%、「2. あまり役に立たなかった」0%、「全く役に立たなかった」7%であった(図3)。

自由記述については、表 2 に示した通り、「経験の機会」「課題を知る機会(自己分析)」「課題を知る機会(他者からの指摘)」「模擬授業及び振り返りの環境」の 5 つに分類した。

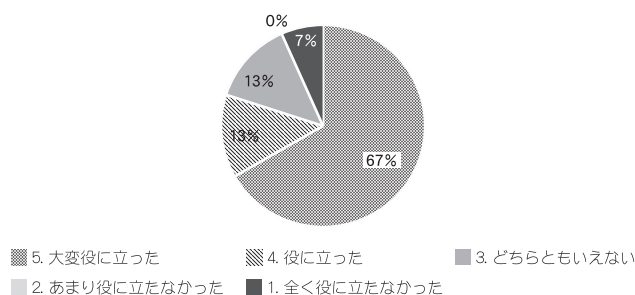


図 3. 模擬授業の振り返り

### 3-3 映像を用いた振り返り

アンケートの結果、映像を用いた振り返りについての回答は、「5. 大変役に立った」と回答した学生が33%、「4. 役に立った」が20%、「3. どちらともいえない」40%、「2. あまり役に立たなかった」7%、「全く役に立たなかった」0%であった(図4)。

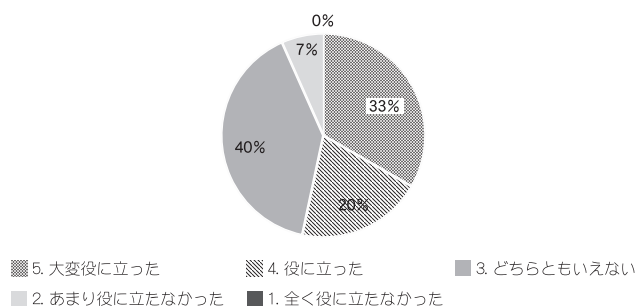


図 4. 映像を用いた振り返り

自由記述については、表 3 に示した通り、「自己の客観視」「映像の量」「映像の質(観る視点)」「映像を用いた振り返りの環境」の 4 つに分類した。

表 1. 模擬授業実践についての自由記述

| 記述内容   |
|--|
| <b>経験の機会</b>   |
| ・何回かやっていった方がいいと思った。  |
| ・前に立って話すというこの慣れとして良かった。  |
| ・実習前に実践的な授業をすることで良い経験になった。   |
| ・実際にやってみて大変さを知れたのでよかった。  |
| ・指導や行動に関しては、自分が言わないと始まらない難しさを体験できてよかった。                              |
| ・時間が足らず、納得できる内容ではなかった。   |
| <b>課題を知る機会</b>   |
| ・できない子に教える際、どのように教えたらわかりやすいかを考えるのが難しかった。                             |
| ・できない人に対しての対策などをもっとしておけばよかったと思った。                                    |
| ・指導案とおりにいかないことが多いので、アドリブなどを付け加える力をつけたいと思った。                          |
| ・授業をやらないと気がつかない部分がたくさんあり、成功して得たものもあれば、失敗して次に参考にしなければならぬ部分も見つかって良かった。 |
| ・いかに生徒に興味を持たせ、やらせるかは大変だと思った。   |
| <b>自己の客観視</b>  |
| ・自分に足りないものがわかった。   |
| ・指導案通りにいかないこともあった。   |
| ・声も大きく、授業も楽しくできた。  |
| <b>複合的に捉える視点</b>   |
| ・自分だったらどうするか考えながらできた。  |

表 2. 模擬授業振り返りについての自由記述

| 記述内容  |
|---|
| <b>経験の機会</b>                                    |
| ・2人で教師役をしていたため、実際1人でやる実感が沸かなかった。                |
| ・授業について考えられたから良かった。                             |
| ・笛の吹き方などが難しかった。                                 |
| <b>課題を知る機会(自己分析)</b>                            |
| ・良かったところ、悪かったところが明確に分かった。                       |
| ・安全面の配慮が重要視できていなかった。                            |
| ・できない子に焦点をおきすぎて他の生徒を疎かにしてしまった。                  |
| ・実施に行ってみて、生徒が静かにならなかつたり、よそ事をしている時の注意があまりできなかった。 |
| ・授業を行ってみて自分が知らない事や大変な事ばかりだったが良い経験になった。          |
| ・生徒の活動になかなか指導できなかった。                            |
| <b>課題を知る機会(他者からの指摘)</b>                         |
| ・周りの人の意見を聞くことができて、改善の参考になった。                    |
| ・みんなに指摘されて、初めてわかったこともある。                        |
| ・授業はしっかりできていたが、安全面に少し欠けていた。                     |
| ・直した方が良いところや良かったことを知れたのでよかった。                   |
| <b>模擬授業及び振り返りの環境</b>                            |
| ・学生一人一人のふりかえりがほしい。                              |
| ・振り返りをやってない、少ない班があった。                           |
| ・時間内に終わることが少なかったため、もっと時間内に終わるようにした方がよいと思った。     |

表 3. 映像を用いた振り返りについての自由記述

| 記述内容   |
|--|
| <b>自己の客観視</b>                                |
| ・第三者から見えた。                                   |
| ・自分の姿は自分では見れないので、映像を見ることによって客観的な視点で見ることができた。 |
| ・自分の映像を見ることで復習できた。                           |
| ・とても詳しく、実習内容についてよくわかった。                      |
| ・わかりやすかった。                                   |
| <b>映像の量</b>                                  |
| ・映像が少なかつたため授業の流れがわかりにくかった。                   |
| ・もう少し長く、映像を見る時間がほしい。                         |
| ・映像でふりかえる時間がもっとほしい。                          |
| ・全部見れたわけではないから、時間を考えてやればよかったのかなと思った。         |
| <b>映像の質(観る視点)</b>                            |
| ・映像が流れている時に、アドバイス等ほしい。                       |
| ・声が聞こえなかつたのでどのくらいの大ききで話しているかわからなかつた。         |
| <b>映像を用いた振り返りの環境</b>                         |
| ・あまり振り返ったようには思えず。                            |

## 4. 考察

### 4-1 模擬授業の実践及び振り返りについて

本研究において、50分の模擬授業の実践を経験した学生は、「5. 大変役に立った」と「4. 役に立った」を併せると93%であった（図2）。また、模擬授業のふりかえりについても、「5. 大変役に立った」と「4. 役に立った」を併せると80%であった（図3）。回答に加えて、自由記述からも、模擬授業を実際に経験し、ふりかえりを実施することについては、現時点での自分自身の指導力を知るための貴重な機会となっていると考えられる（表1、表2）。藤田・細越（2008）は、模擬授業において実際に教師役として授業を運営・管理したり、学習者役として授業に参加したりする実践的な経験を通して、教師と学習者を複合的に捉える視点を持つことができるようになり、教師および学習者についての認識の変容や観察力の向上が見られたとしている。また、模擬授業を経験することによって、教材についての良い点を見出すことができるようになったとしている。本研究の自由記述からからも、「自分に足りないものがわかった」「自分だったらどうするか考えながらできた」などとあり、自分自身を客観的に観察することに加えて、生徒役の際にも教師役の視点を持つことができるようになったことが確認された。

模擬授業の実践について、「全く役に立たなかった」と回答した学生の自由記述を見ると、「時間が足らず納得できる内容でなかった」とある。また、振り返りについては、「一人一人のふりかえりがほしい」とあり、模擬授業の実践や振り返り自体が役に立たないものと考えているのではなく、学生本人にとって満足のできる内容でなかったことがわかる。つまり、模擬授業の体験や振り返りが重要であると考えているため、このような回答や記述になったと考える。そのため、授業運営上の問題点であり改善をする必要があるが、本研究の論点である、本研究における模擬授業の実践や振り返りの実施を支持するものであったと捉えた。

岩田ら（2010）において、「リフレクション・シート」によって、事前に「リフレクション」の焦点が提示されることによって、教員養成段階の学生たちは、よりリフレクションしやすくなると指摘している<sup>7)</sup>。本研究においても、岸本（1995）<sup>11)</sup>を参考に振り返りシートを用いて振り返りを実施したため、振り返りがしやすくなり自分の課題が明確になったと考えられる。

長谷川（2010）の指摘する省察のレベルに、①技術的省察、②実践的省察、③批判的省察という段階ある<sup>5)</sup>。

- ① 技術的省察とは、授業方法が目的達成の手段として、効果的であったか、どんな成果が得られたかを客観的に分析し考えることである授業の目標が伝わっていたか、説明が長くなかったか、適切な助言が与えられたかなど、授業のマネジメントや展開、発問・フィードバックといった相互作用行動などの成否についての関心も含まれる。
- ② 実践的省察とは、その授業が教師や子どもにとってどのような意味をもったのかという個人にとっての主観的意味を解釈する。今日の授業は、競争に焦点をあてすぎたか、もっと生徒中心の指導法がよかったかなど、意図した学習目標や設定した教材、適用した指導法は子どもの実態に適切であったのかについての関心が含まれる。

- ③ 批判的省察とは、どんな社会的制約や理念に基づいて、なぜこの教材をこの方法で教えたのかという、社会歴史的な文脈を考慮した省察である。この水準では、学習課題や教育課程についての深い理解に加えて、学校や教室を超えた社会制度や教育制度に対する創造的で高次な思考が求められる。体育授業での男女共習、選択制授業、障害者と健常者の総合学習などの問題を想起することができる。

このレベルを参考に、本研究の自由記述を検討すると、技術的省察レベルの振り返りであることが明らかとなった。日野・谷本（2009）は、模擬授業や教育実習を通して、体験と省察を重ねることにより省察力が段階的に向上していくことを示唆している。しかし、本研究においては、それぞれのペアは、時間的制約上「保健体育教育法Ⅰ」授業内において、一度しか教師役を経験することができていない。そのため、マイクロティーチングと模擬授業を組み合わせることや、今後の教職課程科目において、教師役の経験を重ねていくことで省察力を向上させると考えられる。

また、松本（2015）は、複数回の指導の経験により、授業をするという感覚やイメージが掴め、心理的余裕を持ち、授業構成がしやすくなり、学習者の反応を予測できるようになったことを報告している。このことから、今後の教職課程科目においても、教師役を経験させることは、省察力を向上させ、実践的指導力をも向上させるうえで有効な方法であると考えられる。

#### 4-2 映像を用いた振り返りについて

松本（2015）は、映像（VTR）を用いて自分の模擬授業を振り返ることに対し、アンケート調査によると受講生の全員が効果的であると答えたとしている<sup>12)</sup>。また、その理由として貴重な機会であり45（50）分間の自分の行為・行動を覚えるのは無理なので意義を感じた事、客観的に自分の授業を見ることができたこと、自分の反省点や課題が見えること、全体の流れや授業の組み立て方、生徒との接し方など様々な視点で考えることができたこと、マイクロティーチングとの違いや改善した点がわかること等が挙げられたとしている。

本研究の映像を用いた振り返りについて、「大変役に立った」と「役に立った」を併せて53%であった（図4）。また、自由記述において「自己の客観視」に分類された、「第3者から見えた」「自分の姿は自分で見れないので、映像を見ることによって客観的な視点を見ることができた」「とても詳しくて、実習内容についてよくわかった」とあるように自己を客観視して授業内容、教師行動を観察できたという部分において有効であったと思われる。

しかし、「3. どちらともいえない」と「2. あまり役に立たなかった」を併せて47%であった（図4）。その理由として、映像視聴時間の短さが影響していると考えられる。自由記述において、「映像の量」に分類された、「映像が少なかったため授業の流れがわかりにくかった」「もう少し長く映像を見る時間がほしかった」「映像でふりかえる時間がもっとほしかった」などの記述からもそのことが裏づけられる。また、音声が開き取れないなど、情報機器教材を活用する際の技術的な問題があったと考えられる。



本研究においては、教師行動、生徒の活動をもとに意図的に編集された教材としての模擬授業のビデオ映像を用いた。そして、学生がどのような視点で視聴するかを検討するために、ビデオ映像に意図はないことが伝えられて視聴した。しかし、あらかじめ視点のポイントを提示する、解説を加えながら視聴する等の方法を用いた方が、教育実習前の学生にとっては効果的であるとも考えられる。木原ら（2007）は、最初の教育実習に行く前に、教育実習生に授業観察の視点をどのように手に入れさせることができるのかを研究すべきであるとしている<sup>8)</sup>。その理由として、事例研究の対象の教育実習生が教育実習当初に指導教員の授業を観察するにもかわらず、観察の観点を持っていないために何を見ればいいかわからないことを述べているからである。そのことを、考慮すると、教育実習前の初めて模擬授業を経験した学生に対する映像を用いた振り返りの方法として、本研究の映像撮影方法や映像の振り返りの方法を再検討する必要がある。

## 5. まとめ

模擬授業を経験した学生に実施したアンケートから、教員志望学生の実践的指導力の向上を促すための模擬授業の実施方法及び振り返り方法を検討することを目的とした。結果として、模擬授業の教師役及び生徒役を体験し、直後の振り返り、事後の映像を用いた振り返りを実施することは、授業に対する分析力を高め、授業を実践する資質の育成に効果があったといえる。しかし、実践的指導力を向上させるためには、模擬授業の実施方法、ビデオ映像の撮影方法や視聴の方法、振り返り方法、等を再検討するなどの授業運営を改善することの必要性が示された。

## 参考文献

- 1) 藤田育郎・細越淳二（2008）体育科模擬授業における学習成果の検討、国土館大学体育研究所所報、27、79-86.
- 2) 藤田育郎・池田延行（2010）体育科模擬授業の効果的な実施方法に関する検討、国土館大学体育研究所所報、29、95-99.
- 3) 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ（2011）教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討、体育科教育学研究 27(1) 19-30.
- 4) 福ヶ迫善彦・坂田利弘（2007）授業省察力を育成する模擬授業の効果に関する方法論的検討、愛知教育大学保健体育講座研究紀要 32 33-42.
- 5) 長谷川悦示（2010）模擬授業の意義と効果的な進み方．高橋他編：新版体育科教育学入門．大修館書店、257-262
- 6) 日野克博・谷本雄一（2009）大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造、愛媛大学教育学部保健体育紀要、第6号、41-47.
- 7) 岩田昌太郎・久保研二・嘉数健悟・竹内俊介・二宮重紀子（2010）教員養成における体育科目の模擬授業の方法論に関する検討
- 8) 木原成一郎・村井潤・坂田行平・松田康定（2007）教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究、広島大学大学院教育学研究科紀要、第一部、第56号、85-91.
- 9) 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎（2008）教員養成課程で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究 - テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素 -、広島大学大学院教育学研究科紀要、第一部、第57号、69-76.

- 10) 木原成一朗・村井潤・加登本仁・謝・松下篤・林楠・松田奏定（2009）教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究(その2) - テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素、学校教育実践学研究、第15巻、29-37.
- 11) 岸本肇（1995）マイクロティーチングによる体育授業の体験学習の効果に関する研究、神戸大学発達科学部研究紀要、第2巻、第2号、195-202.
- 12) 松本奈緒（2015）複数回の指導経験から反省的実践力を保障する体育教師養成カリキュラムの検討 - マイクロティーチングと模擬授業の実施・省察を通して -、秋田大学教育文化学部研究紀要、教育科学部門、70、33-43.
- 13) 三木ひろみ・長谷川悦示・高橋建夫（2004）わが国の教師養成の現状と課題. 大学・大学院における体育教師教育カリキュラム及び指導法に関する研究. 大学・大学院における体育教師カリキュラム及び指導法に関する研究. 研究代表者 高橋建夫、平成13年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究報告書：50-58.
- 14) 文部省（2006）中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度のあり方について」  
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm)>（アクセス日：2016年10月2日）

受理日 平成28年10月3日